

魚沼の里は、辛夷、連翹、木蓮、水仙、片栗、桜草、山桜……と、一日ごとに野山の色彩が変化。その変幻自在ぶりに驚きます。まさに、笑うが如き春山の到来となりました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

◆出会いと別れ、そして絆

美術館は出会いの場です。作品との出会いがあれば、人と人との出会いもあります。私たちはそのせつかくの出会いを大切に、できればつなげていきたいと考えております。ただ、出会いがあれば、別れもあります。新潟日報の六日町支局長をやられた石塚薫氏が3月31日をもって六日町を去り、本社に異動になりました。



長嶋茂雄展

不思議と話の合う人でした。野球の話、展覧会の話、共通の知り合いも多く、時間を忘れて、大いに談笑したものでした。そういえば「長嶋茂雄展」実現の話も、同じマンションの共同風呂で、裸で話し合ったものでした。

真右)。退職という新たな出発をした市役所の山田勝氏(同右から二人目)、島田組の小田島輝一氏(同左)にも当館の思い出を刻んでいただきました。(館長 佐藤吉昭)

◆まだ見ぬ大リーグカードへの想い
 美術館に、湯沢で仕事をしていた若い男性がやってきた。これから東京へ帰るが、その前にぜひ美術館を訪問したかったという。あいにくその日は企画展の展示作業中でバタついており、休館と知らずに「長嶋茂雄展」を見に来た人のためにと、ご了解いただいた上で入館していただいていた。

彼もその一人だった。彼が見たかったのは大リーグカードであった。残念ながら今は展示しておらず、いずれ必ず展示するのでホームページで確認してくださいと案内した。彼はおもむろに美術館のパンフレットを取り出して、メジャーリーグカードを指さしながら、この中の一つが5000万円するかも知れないと言った。彼はイラストレーションを描いているという。冬は湯沢の宿泊施設で働いているそうだ。彼が再びやって来て、「ありました！このカードが見たかったんです！」と叫ぶ日が待ち遠しい。(岡西英孝)

◆新潟・群馬一水会合同展
 池田記念美術館で新潟一水会と群馬一水会の合同展を開催いたします。隣り合う二県の中間に位置する南魚沼市、二県の作家の交流がさらに盛んになるきっかけになればと期待して企画いたしました。一水会についてはゲ



ストコーナーで杉森企観明さんに書いていただきましたが、錚々たるメンバーで高い技術と精神性を込めた写真絵画を堪能できると思います。

出展者は新潟から村山陽さん、杉森企観明さんほか9名、群馬からは寺井力三郎さん(右上「帰れぬ舟」、山名将夫さんほか28名、昨年の一水会展に出展された作品で、風景が中心です。群馬と新潟の風土による作風の違いもぜひご覧ください。(広田かおり)

◆今年のスポーツウエア

日差しが強くなり、公園の雪もみるみる消えています。そして、公園内をウォーキングやランニングする人の姿も増えてきました。体を動かしたくなる、気持ちのいい季節になりました。毎年皆さんに好評をいただいているスポーツウエアの販売を始めます。

先日、スポーツメーカーさんを訪ね商品を選んできました。今年の商品は①独自のカットで動きやすい。②体を包み込むように柔らかく着心地が良い。③着ている時の衣服内温度と湿度をコントロールしてくれる機能性や快適さを備えている。そして女性に嬉しい透けにくさ。それらを兼ね備えたウエアを揃えました。

今年にはスポーツの場面だけでなく、普段でも着られるポップなデザインも入荷。スポーツイベントや美術館のショップで特別価格で

販売します。詳しくは美術館にお問い合わせください。(佐藤良子)

◆我が子に振り回されて

魔の2歳児。自我が芽生え始め、なんでもイヤイヤ！自分でやりたい！と、いつちよまえに自己主張。毎日駄々をこねて言うことを聞かない我が子に、ほとほと手をやいています。

その暴れっぷりは、まさに暴君。女の子といえども侮れません。ソファアの上で飛び跳ね、オモチャは散らかし放題。散歩に出れば危ないものまでまっしぐら！いろんなものに興味津々で、日々新しい言葉を覚えては、周囲を驚かせてくれます。ですが、可愛いと思う反面、子育ての毎日に疲れることもあります。

先日、寝かしつけのときに、どこで覚えてきたのか突然「ママ、ちゅきー」と言って、笑っていました。うーん、負けた。思わずこっちまで笑ってしまった出来事でした。

(桜井多美子)

◆美術館は毎日が勉強中

東京での生活をあとにして、4月から池田記念美術館で勤務することになりました。出身は小千谷ですが、旧大和町の東地区に居を構えたところです。いままでも書籍や雑誌の編集しか経験がなく、毎日が学ぶことばかりです。多くの方と名刺を交換するのですが、なかなか名前を覚えることもできません。

美術館のエントランスに中村晋也「風の又三郎」のブロンズ像があり、残雪に光る八海山の方向を望んでいます。その写真を友に送ったところ、歌が一首送られてきました。

遥かなる山見る風の又三郎
 春の息吹は届いているか
 「春は爛漫、桃源郷の如し。来館を待つ」と遠方の友に返信しました。(高橋良一)

一水会合同展に寄せて

杉森企観明

一水会は、昭和11年に石井柏亭、有島生馬、安井曾太郎ほか8人の画家によって創立されました。「安易な会場芸術を非とし、技術を重んじ、高雅なる芸術を尊重する」というのが一水会の設立の精神です。

現在は、表現の真実性が求められ、堅実な作風でありながら、表現方法などで新しいものを描き出そうと努力しています。

このたび、新潟県と群馬県在住の一水会出品者の合同展を開催することになったことは、大変喜ばしく思います。展示作品には昨年の75回記念展に出品された大作が多数あり、風景や人物、静物など約40点が展示されています。

作家の力が入った作品ばかりで、制作意図が理解でき、わかりやすく、それぞれの感性が伝わってくる作品群です。

会期中は新緑の季節。山々に囲まれた自然豊かな魚沼の残雪風景を描く写生会も計画しております。多くの方に美しい魚沼の風景と絵画鑑賞を楽しんでいただきたいものです。
(一水会常任委員)



杉森企観明「白いユリのある静物」

池田記念美術館 展覧会&イベント情報

■新潟・群馬一水会合同展

◎1階企画展示室・多目的ホール ◎期間：5月3日(土)～6月3日(火)

絵画団体・一水会の新潟支部と群馬支部、合計37人による展覧会です。写実主義を掲げる一水会の作品は、単なる写実絵画にとどまらず、思索と精神性に重きを置いています。新潟と群馬の作家による作風の違いもお楽しみください。

主催：新潟一水会・群馬一水会・池田記念美術館
後援：一水会・新潟日报社・朝日新聞新潟総局・毎日新聞新潟支局
読売新聞新潟支局・FM ゆきぐに 76.2

【出展者】

■新潟一水会

杉森企観明、村山 陽、今城俊雄、高橋力平、広川明人、青柳由紀子
南雲和夫、坂井信行、堀川 博

■群馬一水会

寺井力三郎、山名将夫、小片悦子、田端敏夫、張 益学、外処 旭、前田正好
李 志宏、内山 匡、大谷芳滋、久保田宗夫、黒澤 馨、塚越 潤、中島勇作
日向野 惇、牛込久美子、金子康子、五味 至、澤藤裕史、清水幸哉、関口一男
田村清明、中山孝美、東 暁子、福田栄子、増田敏郎、三宅柳子、山田 優



村山 陽「たんぽぽの碑(いしづみ)」



山名将夫「赤い結びの記憶」

野球好きなら見逃さないカードを多数展示しています

■プロ野球 80年—新時代到来!

◎2階スポーツカード展示室

5月10日(土)～10月中旬

池田記念美術館は今年80年を迎えるプロ野球界を熱く応援します。2014年のルーキーカードや最新のベースボールカードに加え、野球のヒストリックものも展示。あわせて、ミニパネルコーナーも設置します。



◎次回展覧会&イベント情報

四季の彩り—瀧澤 徳展

◎期間：6月6日(金)～6月30日(月)

光風会会員で日展会友の瀧澤徳氏の個展。油彩や水彩など四季の風景が中心です。

■5月の「音を楽しむ集い」

①月例音楽会 5月11日(日) 11:30～ ②フォークソングの日 5月25日(日) 14:00～

池田音楽クラブ会員募集

演奏する楽しみ、聴く楽しみ、サポートする楽しみ……池田記念美術館は音もアートの重要な柱ととらえています。音の大好きな方ならどなたでも大歓迎です。子供からお年寄りまで老若男女、年齢不問。詳しくは美術館までご連絡を! (佐藤良子)

池田記念美術館 南魚沼市浦佐5493-3 (八色の森公園内)
TEL 025-780-4080 / FAX 025-777-3815

【開館時間】9:00～17:00 (入館受付は16:30まで)

【入館料】一般 500円 高校生以下無料

【ホームページ】http://www.ikedart.jp

【5月の休館日】

毎週水曜日 (7日、14日、21日、28日)

※1日(木)、2日(金)は展示替えのため臨時休館となります。
※展覧会の最終日は15:00閉館(入館受付は14:30まで)